

TEKUTEKU 宮代まち歩き活動記録



●日時 2014年4月19日(土)11時～16時半

●企画趣旨: 昭和 40 年代、都心に近いベッドタウンとして期待されながら、極端な人口増を望まず、コンパクトな市街地を選択した町。都心から 1 時間ほどに位置しながら、駅から 10 分ほどで田圃や林に出合える町。東武動物公園のある町。小さい町なのに大学のある町。象設計集団が設計した進修館と笠原小学校のある町です。

今、この一見つかみ所のない町のよいところを再発見、再考し、町のよいところを探して褒める『まちほめ学会』が地元で立ち上がり活動を始めたそうです。

このまちほめ学会会員で地元建築士の手島亙さんに企画と当日のご案内をお願いしました。また東武動物園駅前区画整理事業を担当するUR埼玉地域支社の皆さんにも事業のご案内をいただきました。

まち歩きの後には「進修館」で、手打ちそばをいただきながら茶話会での意見交換も行い、デザイン性豊かで使いやすいコミュニティ施設の有名建築を体感しました。



●歩いたコース: 東武動物公園駅→駅西口地区（土地区画整理事業の現地案内）→中華「織ちゃん」（昼食）→宮代町立笠原小学校→新しい村→西原自然の森（旧加藤家住宅、旧齋藤家住宅、旧進修館）→進修館（茶話会）

●参加者: 石井淳、井出幸人、岩野健一、海老塚良吉、大竹亮、大森享、小川美由紀、小川渉、朽木宏、栗原徹、重永真理子、鈴木丞治、関泰邦、関口智則、高井慧一、高橋謙、高松敬、武井利行、椿真吾、橋本めぐみ、東一邦、平川壮一、*古里実、宮西敏行、村田英樹、毛須知之、森川肇、八代克彦、山崎龍二、若林祥文（*：コーディネータ）



●案内: まちほめ学会 手島亙 氏（デシマ設計(株)）

UR都市機構 東武動物公園駅前都市再生事務所 山崎所長、平川課長

【参加者による評価】

1 今回歩いた宮代のまちの評価 $A \times 21 + B \times 3 + C \times 1$ (4. 6)

(評価点の計算:とても良いA=5点、良いB=3点、普通C=1点、良くないD=1点とした平均値)

A: 外見のまちは、どこにでも見られる“田舎町”であったが、中心となって考え、動いた方の、そして今の方々の“矜持”が素晴らしい。

A: 小さな町でありながら、進修館や笠原小学校のような素晴らしい施設があり、季節が良かったこともあるが、木々の緑や花が非常に美しかった。東京通勤圏でありながら、ベッドタウンを目指さず、本当に街を愛する人だけが来ればいいという思想がこの街の景観を生み出している。

A: 新緑の季節であったこともあり、コンパクトにつくられたまちが美しく見え、デザイン力の高い公共建築が今も生き生きと活用されていることに感心した。

A: 念願の象設計集団の2棟が、じっくり見られて良かった。

A: (大変良い) 緑ゆたかで環境がよく、コンパクトで暮らしやすい町という印象を受けた。季節の花が咲き乱れ、新緑が芽吹き、とても心地よかった。郷土資料館(併設保存建築)や新しい村、町立図書館などの公共施設が立派で、進修館や笠原小学校などの名建築も大切に使いこなされているようだ。

A: 建物と緑がとても美しい

A: 建物に力がある。関わっている方々の建物への愛情を感じる。手島さんの案内がよかった。

A: 今回歩かせてもらったのが新緑の美しい季節だったことが印象を高めていると思いますが、自然と調和するようつくられてきた宮代のまちがとてもきれいだった。

A: 新しい建物と古い民家、屋敷林などの調和が良くとれていると感じました。

A: 進修館、笠原小学校、新しい村、旧斉藤家どれも素晴らしい施設でした。

A: 案内してもらった各施設がそれぞれわざわざ訪ねるだけの価値があり、また歩いてまわるのにちょうどよい距離でした。案内の手島さんの知識も豊富で、資料も適確にそろえてもらっていたへんよく理解できました。

A: 構造物と自然のバランスがよく、“ゆったりと伸びやかな気持ちになれるまち”だと思いました。



A : 歩いて行ける身近な自然との距離感が気に入りました。

A : 小さな宮代町に大きな財産のあることが素晴らしいと思いました。

財産とは：象の建築群、リーダーシップを発揮した初代町長、里の優しい風景

A : 「農」のある環境を意識した自然豊かな街という表現がぴったりだった。

A : 前町長の施設づくり懸けた情熱を実感しました。また、東武動物公園や、コスプレの撮影など若い人の来客者も多く、これからの発展期待される魅力的なまちと感じました。

A : 宮代の町は進修館があり、地元の方々に親しみがある使いかたをしていて良いイメージを持ってました。

A : のどかな風景の中に、建築文化と農がほどよい距離感で存在している。

A : 自然豊かな農村風景を見て、子供の頃を思い出させる様な優しい風が吹いている村という印象です。
お世話頂いた地元の方々からも想像がつかますがそこで育った人々もきっと暖かい人柄だろうと思いました。

A : 宮代町立笠原小学校は縄文式土器のようなエネルギーを感じる独特のデザインで、各所に遊びのデザインがあり、鉄筋コンクリート構造2階建てで、よくこのような設計が実現されたものだと感心しました。齋藤元町長の個性が、進修館と合わせて、個性的な設計を実現させたのでしょう。

A : ゆとりとみどりのある空間構成に、象設計集団の個性的な公共施設がよく馴染んでいる印象。



B : ユニークな建物があるくらいかな、と正直思っていたのですが、田園風景、里山を大事にする町の姿勢自体が素晴らしい！

B : 駅前の計画次第で今後の評価が前後すると思いますが、歩きにくる意味は十分にあると思いました。

B : 宮代を代表するすばらしい建物を巡り、その各建築物についての歴史や意味を適宜説明していただくことで、建築物と設計者の思いや背景を知ることができた。しかし、今回のまち歩きは「宮代」と言うまちの特徴を知ることには繋がらなかった。

C : 今回歩いたルートで見ると低層の住宅地と調整区域の様子（農地、住宅、資材置き場、小規模工場などの混在）は他の地域と比べて特に大きな特徴がないと感じた。

2 特に印象に残った場所など

○象の建築 : 使い込まれている感じで4半世紀前の学生時代よりもインパクトがありました。とくに小学校は1年前に行ったインドと印象がダブリました。

○象の建築群 : 建築群の持つパワーは素晴らしい。同時に、建物実現のキーとなった初代町長の存在、建物を使い続け、そのパワーを活かしている地元の方々が素晴らしいと思いました。



○進修館と笠原小学校：何ととっても、進修館、笠原小学校です。首長さんの熱意、設計者の創り込み、施工者の努力が混然一体となった作品の迫力に圧倒されました。

○進修館と笠原小学校：当時の斎藤町長の哲学を象設計集団がしっかりうけとめてユニークな建物として実現化したものだということがよくわかりました。「その建物を使う人、利用する人を信頼する」という基本的な姿勢がないと、ああいう開放的な建物はできないと思います。学校の子どもたちや先生たち、進修館を利用している市民たちがその信頼によくこたえているのだとも思いました。

○進修館と笠原小学校：外から見ても、中に入っても随所に遊び心が感じられ、その場にいるだけでワクワクしました。建築物そのものだけでなく、施設内の椅子や机などの家具、土地全体の植栽も含めてとてもステキな場所だと思います。

○進修館と笠原小学校：現場で施工した方々（職人さん達）の力に関心しました。

○進修館：極めてインパクトがある建築であるにも関わらず、築後30数年を経て周辺の街と良く調和している。地域のことを本当によく考えて設計したのだろう。

○進修館：前にも見学に来たことはあるが、今回は特別に一般人が立ち入れない屋上に上がることができて良かった。人が立ち入らないところまで造形がすごく、今じゃこんな建物は建てられないだろうなあ…。

○進修館：人々の活動を多彩に誘発するかのような名建築。内部の居心地がよく、何回も訪れたくなる。外の広場もいい。

○進修館：地元の子供たちのたまり場になっている。大人になっても記憶に残る場所になる。

○進修館：この建物、町の人が普通にやってくるだけでなく、議場として町議会の議員が利用したり、コスプレした人が撮影に利用したり、たくさんの人に利用されているところがすばらしい。

○進修館：建設から30年以上たっても、子供たちからお年寄りまで、さらにはコスプレで集まる若者にも愛される建築のデザイン力を感じました。年間の使用料収入（500）では維持管理費（2000）をまかなえないというお話を伺いましたが、これだけ活用され地域のシ



ンボルとなっていることをしっかり評価したファシリティマネジメントが必要かと思います。

○進修館：改修時に着色したとは！！

○進修館：進修館を見たときに幅広い世代が利用していると感じた。多様な利用ができる形態で稼働率が高く、町民に親しまれている施設に見えた。また竣工後30年経過しているが、笠原小学校と同様にどこか懐かしさを感じられ、心地よく過ごすことができた。

○進修館：小さくまとまっていて地元の人以外の方々も使用していることと、使用が決まってないことも良いなと思いとても良い建築だと思います。

○進修館：自由で個性的な建物と空間が、市民の自由な活動や社会活動の場を提供している。始め、道路側から見たら、ごつごつした印象を受けたが、広場や建物内部に入ると、楽しそうな空間構成だと思った。屋上から見た、円形の広場を囲む、傾斜のある建物の形状がすばらしい。

○いろいろな人が集まる進修館：コスプレの若い人、ホールを使っている地域の人、懇親会をやっている我々・・・この施設が地域の方だけでなくいろいろな人に愛されていることがわかる。

○笠原小学校：建築の力を感じる建物を久々に見た。学校と子供たちについて設計者が真剣に取り組んだ気合が伝わってくる。

○笠原小学校：建物として遊び心満載の楽しい学校で、築30年以上経った今でも魅力が褪せないのは素晴らしい。自分が小学校入学の年にできた学校なので、もし自分がここに入学していたら…と想像すると、やはり子どもへの影響は、その未来を含め、大きかったように思う。

○笠原小学校：自分もこの学校に通っていたら、今の自分ではなかったように思わせてくれます。子供たちの可能性を引き出す建築空間になっていると思う。

○笠原小学校：個々の教室をひとつの家に見立て、学校全体が町のような。立体街路としての廊下の空間性がすばらしい。

○笠原小学校：見学を積極的に受け入れている姿勢が素晴らしい。

○笠原小学校：花がきれいだ。

○笠原小学校：時代が経過しているが、古さより懐かしさを感じることができた。教室を出るとすぐに外に出られることや校内に多種多様な植物などの自然があるため、夏の暑さ、冬の寒さなど四季の変化を常を感じられる。また廊下の天井に描かれている。星座や柱に書かれている童謡の歌詞等子供の感受性を養う環境として素晴らしい。

○笠原小学校：至るところに気が利いていて、工夫が為されており、こんな小学校で過ごしてみたいと感じました。また次世代に繋げるインスピレーションも湧いてきました。



○**笠原小学校**：赤い外壁と瓦屋根のユニークさ、南国風のデザイン。教室から校庭に直接出られて足が洗えるのは、学んでいる小学生の成長に良い影響を与えると思う。

○**笠原小学校**：建築物でなく芸術家の作品と感じました。

○**笠原小学校**：開放的で個性的な建物と空間が、教育方針や地域との交流などに活かされている。写真集で見た柱にことわざが書いてある不思議な空間を、実際に見てヒューマンスケール（子供の）で居心地のいい建物だと実感した。でも、冬は風通しが良すぎて少し寒そう。（子供は風の子だから大丈夫か？）

○**笠原小学校**：地域開放や児童たちの心身の解放性が体感できてよかった。ただ、地元にも愛されているのであれば、もう少し訪問者である我々に地元の人からアプローチがあるのかなと期待していたので、その点はただ良かったとは言えない。

○**笠原小と背景の田園**：あんな素敵な学校で学べたら心豊かな人材に育つはず！！

○**笠原小学校と校庭の木々**：木々に囲まれた開放感のある教室は素晴らしい。

○**新しい村**：独特の水路の形態がかつての農村風景を伝えている。

○**直線でない道**：遠くが見えないのでわくわく感がありました。

○**旧斉藤家に向かう途中に広がった農道**：小川、花、農地の風景のどかな雰囲気に心が休まります。

○**西原地区**：郷土資料館に併設して旧斉藤家住宅や伝統農家などの建物が保存公開されている。

○**旧斉藤家の納屋**：2間×3間の単純な形ですが、下屋との組み合わせで良い姿だと感じました。

○**齋藤甲馬の思想**：経済成長に伴う埼玉ベッドタウン化の時代に、「農のあるまち」による低成長路線を取った考えは、今となってはすごく先見の目があったと感服するばかりである。

○**斉藤氏（初代町長）**：良いものを後世に残した功績は大である。

○**齋藤甲馬初代町長の考え方**：「世界のどこにもない町を創る」。住民・文化・自然どれをとっても、世界に同じ地域はどこにもないはず。その中、あえてそのような考えで、まちづくりをされたということが、また、それが今に引き継がれて大切に使われていることが素晴らしく、とても印象に残りました。

○**齋藤甲馬町長の構想**：今回の資料で初めて知りましたが、今も愛され指示されている人となり考え方に感銘を受けました。

○**宮代のまち**：現在宮代町にお住まいの方々がどのように評価し、又引き継いでいるのかは確認できませんでしたが。ご案内頂いた建物や、まちのたたずまい全体が、東京都市圏（埼玉都民？）に有りながら、駅東側とはことなり、伸びやかで、縮こまっていない、感じがした

○**宮代のまち**：コンパクトに市街地がまとまり、スプロールがほとんど見られず、空家や耕作放棄地もみられず、すばらしい街です。市民活動も活発で、郷土の建物に誇りを持っています。齋藤元町長の哲学が今も残っているように感じました。



○宮代での活動：まちほめ学会や宮アジ会など楽しみながら嬉々として活動されている様子が伺え、また建築文化や町の生業を良く理解されて活動が広がっている様に感じられた。

○そば、天ぷら等のおもてなし：地域の方々のおもてなしはお腹と記憶に残りました。



3 東武動物公園駅西口地区土地区画整理事業地の今後の活用について

○難しいところですが、何を持ってくるかはさて置き、コンパクトな中にも垂直方向の開発の道を探っていない今のまちの姿にあって、特に、進修館の屋上に上った時の感想として、建物の階を重ねないスケールが大事かな、と思いました。

○東武鉄道沿線の多くの街が交流し、イベントや各々の街のPRや特産品を販売できるような、交流拠点をつくってはどうか。東武鉄道にとってこの駅は重要な地点であり、沿線の街が交流し、観光、産業、まちづくりなど様々な面で連携することで、沿線地域が発展すれば、東武鉄道としても長期的なメリットがあるはず。

○区画整理としては小規模だが、駅前開発としては大規模な種地。東武鉄道沿線の拠点であり、鉄道工場の歴史を活かすとともに、宮代町のシンボルである進修館や新しい村と連携できる施設の立地を期待したい。

○宮代らしく低層なまちづくりを貫いてほしい。それでいて賑やかな…コンセプトは違うけど、長野の「ぱていお大門」のような。

○行停車駅の駅前一等地にかなり広い土地が出現している。しかしながら、町の人口などから、一般的な大規模商業施設はなじまないだろう。独自のテーマ性と話題性を持ち、東京からも(鉄道で)集客できるような施設がいいのでは。

○東武動物公園にきた家族連れや進修館にきたアニメオタク達がくつろげる空間

○東武動物公園の知名度と新しい村のコンセプトを結び付けたら、ユニークさが際立つと思う。

とりあえず、仮設的な建物やイメージで展開していくのが面白い。継続的な話題作りになる。

○この駅は、桐生、伊勢崎方面から東京に向かう人たちと、日光、栃木方面から東京に向かう人たちが合流する場所です。旅客が通過するだけでなく、ときには下車してみたくなるような土地利用にしてください。

○進修館、笠原小、動物公園があることを予感させる、普通の駅前とは違う駅前にできればいいですね。いっぺんに作るのではなく、時間をかけて。



○横に長い敷地なので、初めから全てをきっちり決めずに臨機応変なゆるい計画がよいと思います。

○四季を感じられる自然が迎えてくれるような、これぞ宮代町というような、駅広ができるといいですね。

○駅前にあれほどの広大な土地があるのはめずらしいと思います。「コンパクトなまちづくり」「低層建築」「農のあるまち」という理念が活かされた開発が行われるといいと思います。もういちど「象設計集団」に駅前の建物の設計をまかせられたらおもしろいだろうなと思いました。



○（具体的なご提案は難しいのですが、）宮代町の顔は、笠原小学校、進修館、その周辺の自然を含めた風景だと思います。そのイメージから大きくかけ離れた、どこにでもあるような施設が乱立するのではなく、宮代町らしい風景と調和した風景がつけられることを期待しています。

○駅周辺の住宅地に配慮して、低層の建物を誘導する。宮代町を訪れる観光客等のための施設を誘致。観光案内所、農産物、加工品等の直売所、レンタサイクル、コスプレ関連ショップ等

○いわゆる便利、でない駅前、まるで宮代郊外みたいな里山のようなイメージの方がいいのでは。象のような宮代町らしさが出ること、期待します。

○都心にかよった施設を作るのではなく、だからと言って収益を生まない建築を作るべきでもないと考えます。訪れる人を増やすだけでなく、そこが宮代町のキャッシュポイントになることで雇用も増え町の活性化に繋がります。普通を做わず、伝統に固執せず、東武動物公園の存在や素晴らしい建築達を包括しアクセスを促す施設であるべきです。施設ではなくて天井が空の空間かもしれません。具体的な案は思い付きませんが、周辺がコスプレ等に活用されていることもプラスに働かせられればより良いと思います。撮影と出会いのスポットとなる公園とかも一部あれば面白いです。

○具体的な提案は思いつきませんが、宮代町の周辺景観や財産と均衡の取れる開発が相応しいと考えます。

○リエーション施設である東武動物公園につながる前段階、導線として、訪問客にとっての癒しの空間を提供したらどうか。農のイメージでも良いかもしれない。

○事業費に配慮した無理のない計画が必要。

○あまり具体的な案などはないんですが宮代の為になるようになってほしいです。

○「土地区画整理」という言葉は発想の古さを物語っている様な。ミッドタウンと六本木ヒルズの違いの様に真っ直ぐ広い通路ではなくて、入り組んだプランの中に見いだせる広場の様な空間規模が宮代には合っている様に感じた。区画だけ決められて、後はそれぞれというのはまちづくりには結び着かないと感じる。作られた街区の中にさらに「道」が入り組んでいる様な発想が有ったら良いのでは。

○事業としては「数字」が重要ですが、住んでいる方々が今まで作ってこられたまちづくりの精神を大事にした再開発をお願いします。

○南口駅前広場が整備され、商業・業務用地が造成されていました。この用地は東武鉄道が購入して利用するとのことですが、容積率 300%も使いきれののかなと思いました。低層住宅地の雰囲気を壊さないで、計画して貰いたいです。

○東部動物公園への入り口としての、交通機能、待合場所、通勤駅前としての生活必需品のあるスーパー、低層の個性的なまちなみを形成する住宅地 など

○住民がそこに行きたい。家から出て宮代のまちの中で過ごしたい。と誘わせるきっかけになってほしい。

○東武鉄道利用者と宮代町住民は半額で利用できる、日本最大のコワーキングスペース。

4 宮代町の今後のまちづくりへのあなたの提案

○駅東側の国道4号線沿いの比較的開発圧力の高い地域との競争、対抗を考えると、非常にまちづくりに無理が出てくると思いました。地理的には“1時間圏内のベットタウン”としての位置にあるとは思いますが、これまで貫いてきた「農あるまちづくり」を継承して、“屋敷林に囲まれた農家（家々）”的まちづくり、子供の今を育む（＝まちの将来を育む、日本の将来を育む）まちづくりを期待します。



○斎藤甲馬氏の先見性や「農」のあるまちづくりというこの町の方向性は、人口減少社会の今、まちづくりの最先端と思われるので、基本的にはこの

路線を継承すべきだと思う。当面の課題は、駅西口区画整理地区の開発だが、東武鉄道と街の人々が一緒になって地域全体を読み解き、開発について考えるような場ができるといいと思う。

○今までのまちづくりに誇りを持ち、これを持続してもらえれば、それで良い気がする。下手に東武スカイツリーラインのイメージに乗らないで。象設計集団の2棟の建物のように年月を経ても魅力が褪せないもの、いわゆるまちの悠久ブランドがあることは、超高齢化人口減少社会による自治体間競争時代において、相当なアドバンテージになり得ると思う。

○現在の落ち着いた住環境や、大切に使いこなされている施設群を見ると、かつての町長の方針が成功しているように思える。交通利便性が高く、駅前の拠点形成が期待できるが、町全体としては、自然と農業と環境という町のよさを守り、育てることが大切だと思う。町を歩き、ほめることで、そのような魅力を住民が認識し共有することが必要であり、まちほめ学会の活動に期待したい。

○「農のあるまちづくり」を継続してください。

○「農のあるまちづくり」を継承を、さらにコンパクトシティとしての取り組みとしてアピールしてみても。デザイン性高い公共建築についても、ファシリティマネジメントの先進事例としてさらに磨きをかけ、情報発信してはどうでしょうか。

○物の高さ制限をすること。推奨する建築ガイドラインをつくり、町民が共有する。都市住民と農家とのよい関係をさらに作り上げてほしい。

○先人がいいものをたくさん作ってきたように見えました。これを大事にしてまちづくりを進めてください。

○農のあるまちづくり、コンパクトシティという周辺市町と一味違うまちづくりを追求することが宮代の価値を高めることになるのではないのでしょうか。

○初代町長さんの遺志を引き継いだ「農」を冠した街づくりがよいと思います。

○笠原小学校の新しい村側の教室の窓越しに見る小川と木々がしげる風景は、心癒されます。土日だけでも、使われてない教室が散策している人たちに開放されると、素晴らしい休憩スペースになるのではないのでしょうか？

○宮代にほこりをもって暮らしている市民の想いを大切にしたいまちづくりであってほしいと思います。

○住民の皆さんに愛されている風景を損なわずにますます活用し、他地域からの人も取り込んでいけるような活動を、今後も進めていただければと思います。そういう意味でも、現在進行中の「まちほめ学会」やカレーを味わう会（←失礼ながら、名称を忘れました。）は大切ですし、もっと広報活動を活発にしていくことが望ましいと考えます。（余談ですが、こちらの活動もステキだと思いました↓）

<http://www.town.miyashiro.saitama.jp/www/actionplan11.nsf/37b3ee62cd3e8418492579f80005c87c/ddd2c93b18e4044249257c4b0008e346?OpenDocument>



- コンパクトな市街地と農村地域を保全するこれまで行ってきた取組を継続した方がよい。農村景観を保全するために、屋敷林や農地に保全について住民の提案によるルールづくりを行う。
- 折角の象のコンセプトを継承・発展してはどうでしょうか。老若男女がテクテク安心して歩き回れたり、街角や路地で一服できる町にしてみたいです。
- 現代性と普遍性をシナジーさせて、町の人が自信を持つ町作りを目指して欲しいです。
- まちの独自性を、住民も訪れる人々も大切に出来るようなまちづくりを。
- 「農」と「自然」を引き続き生かしてまちづくりを進めてもらいたい。
- これからも、笠原小学校、進修館とマッチングした公共施設づくりを。
- このままの方向でいってもらい子供たちにも使えるような建築と計画をしていくことを願っています。
- すこし中心から離れた地域の街路・住宅に人口の少ない「町」の良さが残って居るのに、商店として建てられた建物などが弱々しい、町を意識した修景（例えば看板など）が進むと、其れによって町民の意識が変わると良いと思う。意識している人と、そうで無い人の意識の差なのかも。
- 斉藤甲馬町長の考えが今も宮代まちに根付いているように思いますので、これからもその精神を大事にして、緩やかで人に優しいまちづくりをして頂ければと思います。
- 地域の人が十分に活動を行っていて、今後も活動を勉強させていただきたいと思います。特に、農を大切にするという点で、見習いたいです。
- 今後も、緑豊かで個性的な建築物や町並みを大事にしていだければと思います。
- 今の落ち着いた雰囲気を維持してほしい。

5 その他、今回のまち歩きの感想を自由記入

- 象設計集団の奥深い造形美に触れることができた、とても楽しいまち歩きでした。1点、「まち歩き」であることを要素として加えてほしいです。今回のものはすばらしい建物巡りであったと感じています。（A. I）
- 宮代町を訪れるのは今回で2目ですが、歩いて、宮代の方々とお話してみて、週末にゆっくりこの地で過ごしてみたいと思いました。自分で耕作した野菜を、その場で料理して食べれるデンマークのコロニヘーヴ（小屋付き庭）のような仕組み等ができるといいですね！（Y. I）
- 私は建築学生なので像の建築を手で触れるこの町歩きがとてもいい経験になり地元千葉の建築や現在住んでいる町を歩きたいと思ったことと建築に対して真剣になれた町歩きでした。（K. I）
- 笠間学校に隣接している新しい村で、ほつつけ（沼地を水田として利用するために、掘っては盛土を



して、短冊状の細長い堀と水田が交互に並ぶ）が再現されているところを見学し、のどかな田園地帯を 20 分程歩いて、齋藤元町長の生家や旧進修館（明治初期の寺子屋）、移築された藁葺きの加藤家（江戸期の農家）を見学しました。再び 20 分程歩いて笠間小学校の脇を通って進修館へ、広場では大学生が時代装束でカメラ撮影をしていたり、建物内部では子供たちのグループがテーブルに座って大声で話していたり、活発に利用されています。町職員に案内されて屋根の上に登って、放射線状の軸をデザインした独特の建物構造を見学しました。よく企画されたツアーで、案内者も素晴らしく、蕎麦と天ぷら（となりの調理室で数人が準備してくれました）で懇親会を行い、地酒をたっぷりと堪能できました。（R. E）

○宮代をはじめて歩きましたが、緑の自然や名建築などが醸し出す独特の風土性に、文化の薫り高い町だと感じました。今回は、建物の内部見学や手打ちそばによる懇親会など、地元の方々の多大なる協力で、きわめて充実した企画になりました。ありがとうございます。追伸：手島さんには、昼間のコーディネートに加え、3 次会でコーヒーまでご馳走になり、大変お世話になりました。（R. O）

○建物が緑に映えていて、とても美しい街だった。桃源郷のようだった。（S. O）

○「小さなまちの大きな財産」を堪能できたことが収穫でした。また、今回のまち歩きに地元の方々が複数関わられていたことが全体を充実させていたように思います。コーディネーターの方々、進修館で歓待して下さった方々（まちほめ学会の会員の方々でしょうか？）ありがとうございました。（M. O）

○地域には、今回の手島さんをはじめとして、日々の生業を持ちながら、人、まちを真剣に考えている人が沢山居るということを改めて認識しました。このような方々と話をしながらまち歩きができると最高です。（W. O）

○著名建築とそれを感じ取り意識している人達、ハードとソフトと自然（農等の人工的な自然風景も含め）が心地よく、関係者皆さんの努力があつてこそだと思うが、羨ましいと感じました。斉藤甲馬さんの成果は建築を切っ掛けとした人づくりだと感じました。（H. K）

○まち歩きに続く懇親会では、とても美味しいそばや天ぷらをいただき、その後の二次会では地元の酒を飲みながら地元の方々と語り合い、最後は手島さんの事務所を訪問させていただくなど、数々のおもてなしを通じて、宮代町が本当にいい街であることが実感できました。どうもありがとうございました。（T. K）

○地元の方々の温かい「おもてなし」に感激しました。（J. S）

○「そば」おいしかったです。ごちそうさまでした。（T. S）

○集団行動は苦手ですが、笠原小学校は本当に行けて良かったです。（K. T）

○個人としては 20 年以上前仕事で良く訪れていた街だが、進修館や笠原小学校は訪れたことが無かった。今回の企画で建物内を拝見させていただき、大変感心した。やはりこういう機会を作っていただくと、新たな発見につながると実感した。素晴らしい施設と聞いてはいたが、見ると聞くとは大違いだった。（K. T）

○まちを見せてもらうだけでなく、ご案内いただいた手島さんから宮代町、斉藤町長さん、象設計集団の話を聞きました。いろんな人が大事にまちづくりをすすめてきた様子が理解でき、とても良かったです。（T. T）

○以前 1 人で進修館などを見て歩いたことがありますが、今回ははるかに多くの収穫がありました。進修館のピンク色は改修時から…、笠原小のピンク色はコンクリートに練りこんでいる…、田園風景あつてこそ笠原小…、何よりこれらの建物、風景は町、地元を真剣に考えることから生まれている…、その施設をみんなが



日常頻繁に利用している…などなど。おそば、てんぷら、ごちそうさまでした！(S.T)



○個人的には古民家・町家など歴史的な建築や町並みに注目してしまいがちなのですが、今回のまち歩きは学校・コミュニティセンターという公共施設、そして周辺の農の風景、それらのある風景に釘付けになりました。特に、公共施設などの建築物を見たとき、機能的/デザイン性が高く洗練されているなどなどの感想を抱くことはあっても、ここまで楽しさ面白さを感じたことはなかったため、とてもいい経験ができたと思います。また訪れたいまちです。(M.H)

○まちづくりには「資本の論理」とは別の価値観にもとづいた「ビジョン」が必要なのだとあらためて思いました。歩いた距離も適度で、そのなかに盛りだくさんのそれぞれ考えさせられるものがあふれていた「まち歩き」でした。ガイド役の手島さん、進修館での手打ち蕎麦と手作りの天ぷらでおもてなしてくださった地元の方たちにも感謝です。とてもたのしい有意義な体験でした。(K.H)

○「埼玉モダンたてももの-きまぐれ散歩」のホームページでこの会を知り、現在幸手市生野で地元の施工会社と仕事をしている関係もあり、地域を知る良い機会だと思い参加致しました。宮代町の自然豊かな風景と春風の中で良い建築を見学することができ、大変癒された一日でした。ご案内頂きました手島さん、古里さん他 TEKUTEKU 会の皆様には大変お世話になりありがとうございました。また、進修館での茶話会ではおいしい蕎麦と料理を堪能致しました。ご馳走様でした。調理して頂いた方々のお話を伺い、皆さんが宮代町を大切に思っていることが良く判りました。是非また次回ご案内を頂ければ参加させて頂こうと思っていますので、よろしくお願い致します。(T.M)

○ハナミズキやフジなどの花が満開で気候もよく、すばらしいまち歩き日和でした。地元の建築家の方から詳しい話を聞くことができましたし、手打ちそばなども準備していただいて、参加者の交流の機会としても大変よかったと思います。大変お世話になり、どうもありがとうございました。(H.M)

○進修館や笠原小学校に全国から訪れているという話を聞いて驚いた。建築学科の学生やコスプレをする人たちなど目的を持って訪れていることで建物の持つ力を改めて感じる事ができた。宮代町を知らない人に対して、建物やイベントなどをきっかけにいろいろな人に来てもらえるような仕掛けづくりが大事だと思う。(T.M)

○手島さんのご案内、意見交換会でのそば打ちのおもてなしもすごく良かったです！やはり、まち歩きには、そのまちのキーマンの存在が欠かせませんね(^)v(H.M)

○数十年ぶりの訪問でしたがまちの人々の郷土愛というか人肌感覚のまちづくりを至る所に感じました。(K.Y)

○歓迎してくれた町の方々に感謝します。(Y.W)

(コーディネータより)

○2月の記録的大雪で延期となったおかげで、新緑のとても良い季節の企画となりました。参加者の皆さんの感想には、農のあるまちづくりという先見性高い理念による取り組みへの共感や、進修館、笠原小学校などデザイン性高い公共建築への高い評価はもちろんのこと、地元案内人のかたたちの町への愛情ある丁寧な説明に対して感謝の言葉があふれていました。ご案内いただいた手島さん、地元まちほめ学会のみなさん、UR 担当者の方、本当にありがとうございました。次回は、秋に越谷で開催が予定されている埼玉住まい・まちづくり交流展と連携し、引き続き埼玉のまちの魅力を地元の方々と交流しながら堪能する企画を準備したいと考えています。ご都合がございましたら奮ってご参加ください。(古里実)